

や ざつくばらん矢祭

2025 年 3 月 No: 3 - 41

編集・発行

矢祭ふるさと会事務局

〒204-0002 清瀬市旭が丘1-269-42

TEL 090-2752-2973

FAX 042-495-4183

1 月・2 月の「もったいない市場」活動報告

①もったいない市場 in KITTE丸の内(1/20~1/23)

都心のど真ん中に位置する東京駅丸の内出口からすぐの切手館で開催された、主催：一般社団法人CSVの「もったいない市場」は当初、会社員が多い場所で販売ができるか不安でしたが、佐川町長の東京新聞への働きかけで紙面に掲載されたり、CSVの小寺専務理事の奮闘、ふるさと会役員の応援などで、心配も杞憂に終わりました。「昨日買った野菜が美味しかったので今日も来ました」「こんな見事な椎茸があるんですね！」「私も福島県出身なんです。矢祭町ってどこにあるんですか？」等々たくさんのお客様が来店されて、野菜はネギ一本残らずきれいに完売！日本酒と焼酎も緑川会長の温かい接待で完売！連日ずっと立って矢祭町ののぼりを持ってPRしてくれた立花さん、お疲れさまでした。来店者の方々を笑顔で迎え、品々を売る姿に矢祭町のチームワークとパワーを感じた日々でした。会員の皆様もお近くの「もったいない市場」に隣人・知人をお誘い、盛り上がりましょう!!

②こんにゃく稲荷神社(三輪里稲荷神社)2月6日

三輪里神社は地域から愛されている神社で「こんにゃく稲荷」として親しまれています。初午の日に授与している「こんにゃくの御符」はのどけ患いや風邪に靈験あらたかで知られています。交通＝京成押上線「京成曳舟駅」徒歩10分又は東武伊勢崎線「曳舟駅」徒歩14分の所で、もったいない市場が開催され、緑川会長が参加しました。

③もったいない市場inふるさと交流ショップ台東(2/13~2/18)

佐川町長も二度応援来店され、17日は、議長と事業課長同伴で来てくれました。会員の阪さんや日暮里駅近郊の飲食店経営者の方が矢祭野菜を気に入り、お手伝いに来ていただき大いに盛り上げてくださいました。ふるさと会からは、緑川会長、立花副会長、深谷事務局長、富永・土肥 両事務局次長、も交互にお手伝いに来てくれました。

交流ショップは全国各地の自治体やオーストラリア等が一年中出店しており、地元の浅草の人々は良く知っていて「この前は棚倉町がきていたよ」「昨日買った野菜が美味しかったのでまた来たよ！」等々うれしい言葉をかけてくれました。熊田さんを中心に矢祭町特産品開発協議会メンバーの日頃からの努力の賜物が垣間見えます。



ワンちゃんも
お買い物の
手伝い。美
味しい物が
多く悩んじゃ
うわ！



佐川町長と緑川議長を中心に！ハイポーズ

お近くの直売所に、来らっしょ！！ コロナ禍で開催が不規則ですので、確認の上おいで下さい。

※開店は9:30~10:00から15:00頃迄、売切れ次第終了。

東北最南端の小さくても大きな町の農産物直売所

首都圏
[矢祭もっ
たいない
市場]の
農産物
直売所

- 毎月第2・第4日曜日【武蔵小山温泉 清水湯駐車場】品川区小山3-9-1(東急目黒線 武蔵小山駅東口徒歩5分)
- 毎月第3日曜日【城南信金大井支店】品川区大井1-6-10(JR京浜東北線 大井町駅徒歩1分)
- 毎月第1日曜日【城南信金品川支店】品川区南品川1-4-25(京浜急行 新馬場駅徒歩7分)
- 毎月第4水曜日【三島神社境内】台東区下谷3-7-5(地下鉄日比谷線 入谷駅4番出口より徒歩8分)
- 毎月第2水曜日【千束稲荷神社境内】台東区竜泉2-19-3(地下鉄日比谷線三ノ輪駅下車徒歩5分)
- 毎月第1・3火曜日【昭和橋商店会】江東区亀戸6-43-1(JR総武線亀戸駅東500m/都営バス亀戸六丁目)



矢祭町の歴史【昔の村・矢祭の由来】

緑川敏穂（埼玉県在住）

そとくぼらん 41

奥州陸奥の国（磐城の国）白川郡「下石井村」

前号からの続き

龍台寺、真言宗新義派「正覚院」村の北方にあり、永禄三年三月興純僧正開山創設杉、檜を植える。（現在は入山に移る）

泰陽寺、下石井字^{がらみそく}腸ヶ作にあり、大内山曹洞宗大源派、文禄年間創設、天明期焼失

民話

舟ヶ沢伝説、下石井字宮内と石畑の境に「舟ヶ沢」という小川があつた。大昔下石井の人達は舟ヶ沢のぼつて山の頂上に舟を見に行つた。いつのころかから「舟見が沢」が「舟ヶ沢」になった。はなどり地蔵、信心深い百姓の若者が一人で田圃を耕していると、何処からか小僧が現れて「馬のはどり」を手伝ってくれた。「何処の小僧さんだつて？」と思ひながら、いつもお祈りしているお地蔵さんを見ると、足に泥がついていおり、口にはネギがついていましたとき、

小僧さんそつくりだつたので若者は「お地蔵さんが助けてくれたんだつて」と思ひ。それから一生懸命信心し田圃の仕事に励んでいた。いつの日からか、この地方では「はなどり地蔵」と言われているそらだ。

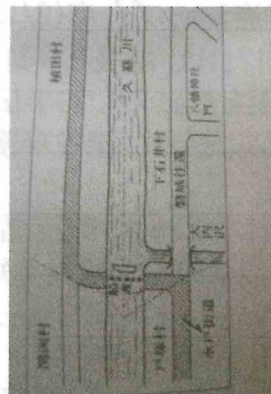
舟ヶ沢の伝説



はなどり地蔵



船渡の略図



奥州陸奥の国（磐城の国）白川郡「中石井村」天保三年（一八三六）村明細帳より

古くは、高野郷大内村と言われ、江戸時代には棚倉藩の支配を受けた。享保一三年に天領地となり塙代官所の支配下となった。安永七年（一七七八）上組（上石井）と下組（中石井）とに分かれた。

天保期には八八戸五〇〇人超と大きな村で、東館と並んでこの地方の中心であつた。

明治二年町村制施行により石井村となり、村役場を小野沢に置いた。同年棚倉に郡役所を置き一町一ニヶ村となった。

豊里村、高城村、石井村（上石井、中石井、下石井、戸塚）となり、この体制が六〇年余続いた。

昭和三〇年塙町に組み入れられ塙町の大字中石井となった。この年高城村の一部内川、関岡、茗荷が別れ豊里村と合併して矢祭村が発足した。昭和三二年上石井を除き中石井、下石井、戸塚が分町し矢祭村に組み入れられた。昭和三八年町制施行に伴い矢祭町となり矢祭町大字中石井となった。

以下次号